

# 古事記を読む会 34号 (2017,11,4)



11月になり、周囲の山々も紅葉の美しい季節となりました。呉羽山は21号台風でかなり荒れ、まだあちこちにその跡がうかがえます。

さて、前回藤田氏にお話を聞いて、思ったこと等いろいろ出し合いました。まず、高原氏より、7世紀には三輪山の祭祀に遷っていくが、三輪山＝大物主の神を古事記本文よりたどってみる。すると、名を尋ねてから話を進めるものと、名を尋ねていないものがあるが、何か意味があるのだろうか。大物主は何の神か？土木事業との関わり：池を作る・堤をつくる。p193,197,212等。p287 秦人、和邇の池、難波の掘りの江にスミノエの津、仁徳天皇の所によさみの池がある。オオモノヌシは朝鮮半島からきた人間が土木工事の一括酋長として斎まつられたのか？オオモノヌシp192で、名前を聞かないのはなぜか？

素朴な疑問として、ヤマトのシンボリックな三輪山に何故イズモの大神が祀られるか？(近藤)別紙参照 関連してイズミ・五十嵐等の意見があった。

オオモノヌシとは？モノとは、神という意味もあるか？モノは不思議な言葉とされている。(イズミ)もの：物質、形のあるもの。モノ 精神的なモノ、物の怪。モノノベ：軍事。祭祀氏族。御霊・霊魂。モノノベ：霊鎮めの神道を伝える祭祀氏族。人間の精神状況を安定させる。神も様々な面をもつ。・おだやか：和霊(ニギミタマ)、荒々しい：荒霊(アラミタマ)、幸霊(サキミタマ)、奇霊(クシミタマ)神はもともとは一つであるが人を導く為にいろいろな形で表れる。(五十嵐)ヤマトには大倭神社がある。クニタマの神。ヤマトが遠慮していたのは、鉄の関係でヤマトへの発言力があつたか？アメオホボコ+ツルガ 古事記は敗者の視点で見た本か？(近藤)オオモノヌシはこの土地におられた三輪山の神：ヤマトは皆で共立した政権：縄文時代から弥生時代はバトルの形跡がないから静かに融合したと考えられる。(近藤)ミワ山という名。なぜ三輪山と言われるか？三和三輪の本質にかかわる。上から見たら等高線が三つ。(イズミ)

## 服部先生の提案 「橘の自生地を訪ねて」 資料参照

垂仁天皇の御代にタジマモリが常世の国からもたらしたものが橘(タチバナ)とされるが、橘は日本の固有種で、中国、朝鮮にはないことから、タジマモリが我が国にもたらしたものは橘と近縁種のコウライタチバナではないかと想像される。コウライタチバナはタチバナより大粒である。コウライタチバナの自生地の写真と、濟州島の柑橘植物園のコウライ橘の写真を比べて見る事が出来た。ヤマトにある多くのタチバナの分子系統樹を示された。A群からF群まで近い種のものでどこにあるかが分かる。伊豆の西海岸の自生地を訪ねられたのに続いて、タチバナの謎を解くために資料を集め、追究がさらに深まる提案でした。

本日は、村上さんが「オオクニヌシのお嫁さん」とのテーマで提案されます。今回は、12月3日 年内はあと1回です。研修会は、午後2時開始、恒例の忘年会は6時開始という時間設定はどうですか？場所：前年と同じ、「つむぎ乃」内幸町 1月、2月は休みです？